

① 自分と地域を重ねて、
しあわせを考えられる住吉区に

【重点取組事項4】
子ども中心のイベント開
催の支援

【現状と課題】

・区内の社会福祉法人を中心に、高齢、障がい、妊娠中の女性などの住民や地域のボランティア、小中高校、大学などの協力を得て、さまざまな福祉学習・ボランティア学習・防災学習などの機会が創られています。
・プログラムの一部は平日夜間や土曜日開催のものもありますが、多くは平日日中での開催が多く、参加できる方が限定的になりがちであること、プログラムの内容に広がりが見えにくく、福祉への関心が高い方の参加にとどまりがちな面があります。

【これまで取り組めたこと】

・学校、地域住民、企業関係者などを対象とした障がいの理解、まちのバリアフリーなどに関する学習機会の実施
・認知症サポーター養成講座の開催
・地域・子ども食堂の広がり
・高校・大学生を対象とした社会福祉施設の見学ツアーの開催
(区社会福祉施設連絡会)

【これからの目標】

・スポーツや文化活動などの地域行事の中に、福祉や防災的要素、多世代交流の要素等が自然と取り入れられ、楽しめるプログラムが広がっていくことをめざします。
・平日夜間や土日など、現役世代も参加しやすい行事、スポット的な手伝いが歓迎される行事などが増え、コミュニティとの接点が増えることをめざします。
★自分のやりたいこと、できることから無理せず活動に参加してみよう。

②地域のしあわせを
いろいろな人と話しあえる住吉区に

【重点取組事項3】
地域座談会への参加依頼や、地
域座談会内での交流の場の協議
依頼

【現状と課題】

・地域における福祉的な現状や今後の地域に必要な取組みなどについて、多様な地域住民の参加を得て話しあう地域座談会を2018(平成30)年度以降、各地域で開催しています。2018(平成30)年度は、墨江・長居・苅田の3地域で、2019(平成31(令和元))年度には、東粉浜・南住吉・苅田南の3地域で地域座談会を開催しました。
・以降も開催計画がありましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、開催見合せが続き、2022(令和4)年度、山之内が開催を再開したほか、依羅では地域独自のまちづくりワークショップを継続開催しています。
・継続的な開催や定着、参加者の広がり、「参加してみたい」「続けて参加したい」と思えるような運営方法の工夫・充実などが課題になっています。

【これまで取り組めたこと】

・地域座談会を区内12地域のうち、7地域で開催
・地域座談会での対話を通じて地域の文化祭、子ども向け行事、地域の歴史を再発見するまち歩きなどの企画が実現
・地域関係者、ボランティア、NPO、学校教員、PTA、福祉関係機関、郵便局員等新たなつながりの創出

【これからの目標】

・地域で暮らす人、働く人、学ぶ人など、立場のちがいを超えて誰でも身近な地域で気軽に集まって地元の話ができる茶話会的な場が生まれ、多様な人のつながりの機会、地域のこれからの話しにも花が咲くような機会が広がり、定着することをめざします。
★自分のまちをこんなまちにしたい、を身近な人々と話しあおう。

③助け助けられ、お互いさまを
実感できる住吉区に

【重点取組事項1】
各地域で実際に活動中の支
援者にアンケートを実施

【現状と課題】

・住民相互の支えあい活動においては、「支える側」も「支えられる側」も同じ地域の住民です。住民の一人ひとりが「助け上手」「助けられ上手」となって、日常的な声かけや見守りを通じたつながり、お互いに支えあう関係づくりを進めています。
・「大阪市における地域福祉にかかる実態調査」(2022(令和4)年度)では60%近くの人々が地域福祉活動への関心がある一方、現在活動に参加している割合は約7%にとどまっています。
・地域福祉活動の参加者を増やすことや活動内容の固定化による負担感を減らし、モチベーションを維持することが必要です。

【これまで取り組めたこと】

・地域における“スマホ教室”で学んだ高齢者が教える側のボランティアとして活躍
・“子ども見守り隊”活動で、福祉施設の利用者が見守る側として参加
・地域施設の花壇づくりに認知症高齢者が参加など

【これからの目標】

・さまざまな“居場所”や“出番”が得られる機会、人が地域に増えることにより、「支える側」と「支えられる側」が柔軟に入れ替わったり、循環したりするような、人と人との新たなつながりが広がることをめざします。
・日常からの支えあいで、災害時の助けあいや復興にも強い地域をめざします。
★頼り上手は頼られ上手、お互いさまの関係を増やしていこう。

④地域のしあわせ「今」「これから」
がみんなに見える住吉区に

【重点取組事項2】
地域福祉の取組内容の情報
発信を強化

【現状と課題】

・各地域では「児童の登下校時の見守り活動」「ふれあい喫茶などのサロン活動」など、地域福祉の向上に資する活動が実施されていますが、実態調査では地域福祉活動が実施されていることを「すべて知らない」との回答が約2割ありました(町会未加入の場合は約3割)。
・同じ実態調査では、地域福祉活動に参加しなかった理由(複数回答)のうち、「活動があることを知らないから」「活動の内容がよくわからないから」「参加の仕方がわからないから」がいずれも約2割あり、前回調査より増加しています。

【これまで取り組めたこと】

・地域の行事や取組みなどの地域活動、ボランティアに関する情報の発信
・発信に際して、広報紙やホームページなどを活用

【これからの目標】

・地域行事やボランティア活動などに関する情報発信について、ソーシャルメディアを含めた多様な媒体が用いられ、興味や関心に応じて気軽に情報をキャッチできる環境となっていくことをめざします。
・例えば前述の地域での茶話会等が開かれたような場合に、会に参加できなくても話題が共有できるような情報発信が行われている環境をめざします。
★自分のまちでどんな活動が行われているか探してみよう。